東北大学 COI-NEXT
合同シンポジウム2024

人と地球のウェルビーイングと持続可能性を考える

10/10 木

13:00 –16:30

会場 東北大学大学院環境科学研究科
本館２階 大講義室
（宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 468-1）

プログラム

13:00 開会挨拶　東北大学 産学連携担当理事　遠山 毅
13:05 来賓挨拶　国立研究開発法人 科学技術振興機構 共創の場形成支援プログラム
共創分野・地域共創分野 第３領域 プログラムオフィサー　岸本 喜久雄 氏
13:10 趣旨説明　東北大学大学院 医学系研究科 眼科学分野 教授　中澤 徹

第１部

13:15 各拠点プロジェクトリーダー発表
- **美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点**
  東北大学大学院 環境科学研究科 教授　松八重 一代
- **ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点**
  東北大学大学院 生命科学研究科 統合生態研究室 教授　近藤 倫生
- **「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点**
  東北大学大学院 医学系研究科 眼科学分野 教授　中澤 徹

14:15 ポスターセッション ＋ コーヒーブレイク (現地参加のみ)
（会場：環境科学研究科本館１階 展示室２）

第２部

15:15 パネルディスカッション
自然、食、健康の３つの視点でウェルビーイングと持続可能性の未来を語る
各拠点 PL・参画機関等関係者
モデレーター
東北大学 研究推進・支援機構 リサーチ・マネジメントセンター 特任教授　稲穂 健市
16:15 各拠点プロジェクトリーダー挨拶
16:25 閉会挨拶　東北大学大学院 環境科学研究科長 教授　吉岡 敏明
16:30 終了

17:00 意見交換会 ¥5,000/1人
（会場：環境科学研究科本館１階 展示室２）

シンポジウム **無料**
意見交換会 有料 ¥5,000

オンラインと現地のハイブリッド開催

申込み QR コード
https://forms.gle/FVp2hb1fNCKmhtuT8

【後援】東北大学グリーン未来創造機構

主催・問合せ

VISION to CONNECT
「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点
TEL 022-717-8736
E-MAIL coinext.mieru.seiryo@grp.tohoku.ac.jp
https://coinext-mieru.tohoku.ac.jp

Nature Positive Sustainable Development Hub
ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点
TEL 022-795-6688
E-MAIL nature_positive_hub@grp.tohoku.ac.jp
https://www.naturepositive-hub.jp

Gastronomy Geopolitics
美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点
TEL 022-752-2239
E-MAIL erpc_vision@gastro-geopoli.com
https://gastro-geopoli.com/gastro/

東北大学COI-NEXT 3つの拠点

VISION to CONNECT
COI-NEXT
TOHOKU UNIVERSITY

01

「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点

本プロジェクトは、「誰もが共に暮らし、働き、遊べる社会」を実現するために、市民、大学、企業、自治体など多様な参加者を迎えて、「みえる」を通じて、“何をどのように変えたいのか”をテーマに徹底的な議論を行い策定されました。ありたい未来像の実現に向けて、戦略の継続的な見直しと全体進捗管理の徹底に努め、プロジェクトを推進しています。「みえる」からはじまるエンパワーメントを独自の戦略として、学際的なアプローチでグローバルな社会課題を解決します。また、社会の変革を促進するために、「情報格差ゼロ社会の設計」「『みらいをなおすヘルスケア』の確立」「自己実現とコミュニケーション変革」の各ターゲットに向けた研究開発課題に取り組んでいます。誰もが外の世界・社会からの情報をもれなく取得し、最適な形で活用することを可能にし、人とのつながりと自己実現を達成させることで、多様性に満ちたイキイキと自由に暮らせる社会を創造します。

VISION to CONNECT

Project Leader

東北大学大学院医学系研究科 眼科学分野 教授

中澤　徹
Toru NAKAZAWA

profile　2002年東北大学大学院医学系研究科外科学専攻眼科学分野博士課程修了、公立刈田病院眼科長、東北大学病院助手、米国マサチューセッツ眼耳病院リサーチレジデント、東北大学病院講師、東北大学大学院視覚先端医療学寄付講座准教授を経て、現職。

Nature Positive
Sustainable Development Hub

02

ネイチャーポジティブ発展社会実現拠点

豊かな自然や生物多様性の回復は、人々のウェルビーイングの実現および社会の持続的発展に不可欠なグローバル課題であると同時に、地域振興やビジネスとも密接に関わる複合的な課題です。本拠点のミッションは、「自然」という最も基本的な資本を社会・経済活動に適切に組み込み、自然と社会が共に発展する「ネイチャーポジティブ発展社会」を構築し、自然関連課題を同時に解決することです。この高い理想の実現のため、本拠点は次の３つのターゲットに取り組みます。(1) 自然の価値を高め可視化する (2) ネイチャーポジティブな事業や活動に向けた資金流入を促進する (3) ネイチャーポジティブ発展社会を支える人材を育てる本拠点は産学官民が連携する「共創の場」として、多様な主体による取り組みを支えると共にリードする社会共通インフラの役割を果たし、新事業を創出する「生物多様性のシリコンバレー」として成長・発展することを目指します。

NATURE POSITIVE SUSTAINABLE DEVELOPMENT HUB

Project Leader

東北大学大学院生命科学研究科 統合生態研究室 教授
東北大学・海洋研究開発機構 変動海洋エコシステム高等研究所
生態複合研究ユニット ユニットリーダー

近藤　倫生
Michio KONDO

profile　1996年京都大学理学部卒業、2001年京都大学大学院理学研究科博士後期課程（生物科学専攻）修了（博士（理学））日本学術振興会PD、龍谷大学理工学部講師、准教授、教授を経て、2018年4月より現職

Gastronomy Geopolitics

03

美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点

一次産業は激化する気候変動の影響を大きく受けますが、とりわけ海洋生態系の変化は著しいものです。これまで培われてきた地域の食文化も気候変動への適応が求められる一方で、食は最も保守性の強い文化の一つでもあります。一次産業を支える環境・生態系への理解、食文化の気候変動への適応については、学問知が不足している分野であり、これについて学側で知の創出に向けた研究開発を行います。また、未利用農林水産物の利活用をすすめるにあたり、問題共有・意識啓発を通じて官との協働によりシステム設計をすすめます。また地域の高校もプロジェクトに参画し、事業者とともに未利用資源を活用した製品共同開発を行うとともに、グリーンジョブの創出支援ならびに共創教育の場作りもあわせて行います。本プロジェクトを通じ、地域における将来世代の就労機会の確保に向けて、一次資源供給・消費に関わる環境管理・保全、未利用資源の活用、流通、提供のサプライチェーンを通じた「職」をグリーンジョブとして位置づけ、若手人材のキャリアアンカーになるようジョブマーケットの醸成を目指します。

Gastronomy Geopolitics

Project Leader

東北大学 大学院環境科学研究科 教授

松八重　一代
Kazuyo MATSUBAE

profile　1998年早稲田大学政治経済学部政治経済学科卒業、2004年早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程（理論経済学・経済史専攻 計量経済学専修）単位取得の上退学、博士（経済学）。東北大学大学院環境科学研究科（助手・助教・准教授）、工学研究科（准教授）クイーンズランド大学（訪問准教授）を経て、現職。

パネルディスカッション

モデレーター

東北大学
研究推進・支援機構
リサーチ
マネジメントセンター
特任教授

稲穂　健市

弁理士、米国公認会計士（デラウェア州Certificate）。大手電気機器メーカーの知的財産部門、米国研究開発拠点などを経て、2014年に東北大学に着任。2022年7月より現職。東北大学革新的イノベーション研究プロジェクト（COI東北拠点）では戦略統括を務め、2023年に「第5回 日本オープンイノベーション大賞」選考委員会特別賞を受賞。2023年4月より内閣府科学技術・イノベーション推進事務局上席科学技術政策フェロー。知財啓発に関する著作多数。

パネリスト

積水ハウス
株式会社
フェロー
R&D 本部

河﨑　由美子 氏

1987年　積水ハウス株式会社入社。
住めば住むほど幸せ住まい、子どものための住まい環境、ペット、収納、食空間、家事のユニバーサルデザインなど、日々の生活に密着した分野の研究開発を担当。
幻冬舎plusコラム、日経DUALコラムを連載中。
執行役員、住生活研究所長を経て、2023年より現職。一級建築士。

パネリスト

一般社団法人
サスティナビリティ
センター
代表理事

太齋　彰浩 氏

民間機関の研究者を経て2000年に南三陸へ移住、研究・教育事業導入で年間数千人の交流人口を創出。震災後は町職員として水産業復興に貢献、「循環型でレジリエントなまちづくり」を目指すバイオマス産業都市構想の実現を推進。2018年にはサスティナビリティセンターを設立、「森里海ひといのちめぐるまち」を掲げる町の将来像実現を支援。2024年度より東北大学客員教授、NP拠点人材育成ターゲットリーダーを担う。

パネリスト

株式会社
志摩スペイン村
専務取締役

粕本　源秀 氏

1986年近畿日本鉄道株式会社(現近鉄グループホールディングス株式会社)入社　1994年に開業の志摩スペイン村に準備段階から出向し約11年間勤務した後は、主に近鉄グループの流通関係の業務に携わるが、2020年に再び志摩スペイン村に着任する。総務、営業企画、施設などを担当し、現在開業30周年を迎えたテーマパークで記念イベントを展開中。